

タウンミーティング記録 未来に向けて 今、ここから

日 時 令和6年11月19日(火) 午後7時～8時45分
場 所 元福岡集会所（元福岡自治会）
参加者 40人



主な意見等

参加者 建設中の川越江川対策、川崎調整池の現在の進捗状況について、川崎調整池が完成後、元福岡地区の効果はどの程度ありますか。

市 長 川崎調整池につきましては、元福岡地区の皆さんが気になる件だと思います。令和6年5月から現場作業が始まり、地質調査や測量などの必要な調査を行った後、10月からは川越江川雨水幹線からの取水堰の工事に着手し、水を流すための導入渠、築堤の設置を進めているところです。川崎調整池の完成を100%とした場合、令和6年10月末時点では、13.5%の進捗率、令和7年3月末の進捗率見込みは約43%までの工事が進められればと考えております。ただ、軟弱地盤対策や、湧水処理を行いながらの作業等の新たな課題が発生しているのも事実です。特に8月、9月のゲリラ豪雨等により、現場が冠水して、作業の大幅な手直しも発生している状況です。

令和7年度の出水期までの完成を目標として、安全を確保しつつ工事の円滑な進捗に努めていきたいと考えております。なお、川崎調整池の完成後は、平成29年台風第21号と同規模の降雨があった場合でも、元福岡地区の床上浸水を解消できるものと見込んでおります。

参加者 元福岡地区入り口、桜の坂の整備について、桜の木が経年により老木化して倒木のおそれから数本伐採されました。

又、交通量の多い坂ですが、歩道が整備されておられません。今後、桜の木の対策と歩道の整備についての取り組みについてお聞かせください。

市長 以前にも元福岡地区から質問を頂いた内容かと思いますが、桜の木以外の市内全域を見渡すとかなりの数の老木があり、木の種類や同じ種類の樹木でもしっかりしているものもあれば、幹が空洞化している状態になっているものもあり差異があるので、樹木医の診断を得ながら適正な維持管理に努めてまいります。

また、報道でご存じかもしれませんが、東京都日野市では銀杏の太い枝が落下して尊い命が失われる事故も起きております。町中の全ての樹木を調べることはできませんが、樹木医によると外見からも判断はできるので、気になる樹木については樹木医が診断して、適切な樹木の維持管理に努めていきたいと考えております。

歩道の整備につきましても以前に質問を頂いておりますが、引き続き検討してまいります。

参加者 元福岡1丁目と川越市寺尾地域の市境が、台風等大雨の時、内水氾濫が起きているのでその対策と市道雨水マスに貯まる土砂の清掃についてお聞かせください。

市長 ご指摘の地域につきましては、元福岡1丁目地域と寺尾地域に比べて標高が低く、窪地になっていることから、台風やゲリラ豪雨等の大雨の際には、雨水が一気に集まってしまうため、一般下水道管による排水処理がしきれず、内水が一時的に溜まる状況です。

このような状況から、現在の対策としては、江川3号雨水幹線（川越江川）が満水になるまでは、備え付けのマンホールポンプによる排水を行っており、また、マンホールポンプでの排水ができなくなった場合には、エンジンポンプを用いて、排水を行っております。

しかしながら、近年の台風やゲリラ豪雨等による大雨に対しては、こうした対策では床上、床下等の浸水被害を抑えることができなくなっているのは事実です。その対策として、先程にも説明しています川越市と共同で貯留量約38,000 m³の調整池整備に着手しており、調整池の完成後は、平成29年台風第21号と同規模の降雨があった場合、元福岡地区の床上浸水を解消できるものと見込んでおります。

皆様のご心配を少しでも解消できるように努めていきたいと考えております。

また、川越市に対しても寺尾地域よりも上流に、ふじみ野市が上流に整備している雨水貯留施設の整備について要望しております。

市道雨水マスの土砂の清掃につきましては、道路課で清掃させていただきます。

参加者 昭和、平成、令和と時代が変化していく中、地域の住民の意識の変化、自治に関する考え方も大きく変化してまいりました。

そのような中、自治会の立ち位置も変化していく必要を感じており、若い世代の住民が積極的に自治会に参加し、よりよいコミュニティーが作れるような自治会にしていくことが、次の世代につなげる大切さを痛感しております。

ふじみ野市の自治会組織について、これからの目指す地域に必要なとされる自治会についての展望があれば、お聞かせください。

市長 この問題は悩ましい限りで、全市的に自治組織の加入率は減少傾向にあり、自治組織は名前のおり自治なのです。市町村も地方自治体と呼ばれるようにこの地域を治めなさいという意味です。自治組織は地域の皆さんが力を合わせて一緒に暮らしていく、地域の行事、子どもたちの見守り、災害の対応を行ったりします。

特に元福岡地区の皆さんは、私も夜中に災害の現場に行くと会長が胸辺りまで水に浸かりながら廻っている姿を見ており、今年も8月29日の大雨の際に会長と最後に電話で話したのは夜2時頃だったと思います。私も朝まで市役所にいましたが、そのような状況の中でも、地元で自治組織の皆さんがいるからこそ連絡体制が取れ、そこで暮らしている方の思いもわかります。

また、他のタウンミーティング会場での話ですが、ある若い方の話として、以前は自治組織とは距離を置いていたが、被災地支援へボランティア活動に行った際に、行政職員は他の作業で精一杯の状況の中、地域の方々が土砂災害等に対して皆で力を合わせている姿を見て、これは私の考えが間違えていたと思い、市からも皆で力を合わせていく自治組織の有効性を発信してほしいと言われました。

若い方ばかりではありませんが「自治組織に入って何かメリットはあるの?」と言われる方もいますが、登下校するお子さんたちを見守ってもらうなどメリットが無いということはありません。

万が一、災害が発生した際に行政が食料品等を配布する前に、近所の方々に持ち寄ったもので炊き出しを行った場合でも、あなたは自治

組織に加入してないから取りに来てはダメだよ、とは言われな
いと思います。だからこそ、平時から皆で力を合わせていくことが必要
であり、これまで以上に取り組んでいかないといけないと思
います。昨今の時代の流れで個人主義、価値観の違いもあるか
もしれませんが、現状を打開するような方策を取っていき
けるよう町会自治会連合会と力を合わせて取り組んで行
きたいと考えております。

参加者 まもなく20年を迎えるふじみ野市が生活者の目線から、誇れる
まちに変貌してまいりました。20年前夢を見れるまちから、夢を持
てるまちになりました。

これからの世代がこのふじみ野市で安心して豊かに生活できるよ
うな取り組みをお願いいたします。

市長 行政と民間の違いは、民間は一生懸命努力して売上げ目標を立て
て、お客様にサービスや商品を購入してもらいその対価を得る。行政
は皆さんから納めて頂いた税金を、皆さんから要望される事柄につ
いてそれを分配していく、また、国の制度上決まっている社会保障を中
心に支出は右肩上がりが増加しております。その中で一番大事なことは
安全・安心を確保しなければならない。

市の排水管は1時間あたり50ミリ程度を想定して造られていま
すが、想定以上の雨が降れば流れるのは難しくなります。この状況で
どのように安全・安心を確保していくのか、川越市と合同で調整池を
整備する話はさせていただきましたが、雨だけではなく万が一の地震
も起こるかもしれませんので、そのための対策も取らなければなり
ません。

そして、現在は子供たちの数が少なくなっており、全国的に出生率
が下がっている中で、出生率を上げることは中々難しいですが、私は
ふじみ野市の舵取りを担っている者として、地域間競争の中でふじみ
野市に若い世代を集めて、これまで頑張ってきた世代を支える世代を
増やせるような政策を展開していきたいと考えています。

そのためにも文化やスポーツの活動拠点の様々な活動拠点を整備
して、子ども優先の政策を掲げているので、子どもを育てやすい、子
どもたちが学ぶ学校の環境整備、そのようなことに力を入れながら若
い世代から魅力があるまちづくりを進めていきたいと考えておりま
す。

参加者 空き巣被害が最近元福岡地域でも多く見受けられます。空き家が地

区内に増え防犯対策が課題になってまいりました。地域の連帯が抑止の一番で隣近所の見守りが必要です。地域の団結強化に自治会も取り組んでいるつもりですが、ふじみ野市の取り組みをお聞かせください。

市長 既にご存知の方もいるかもしれませんが、防犯メールを使用した情報の配信、防災無線を使用した情報の放送を行っております。

また、ながら防犯活動と言いますが、散歩しながら、犬の散歩をしながら地域の目を増やしていく活動を行っており、地域のボランティアの方々に結成されている青色防犯パトカーが市内を巡回することによって、犯罪の抑止活動を行っています。

最近では屋根の点検を装って、よその工事現場に来ていたらあなたの家の屋根が心配ですよ、と言ってくるなど色々なケースの犯罪が増えてきています。また、空き巣以外にも物騒なのは強盗被害で、ふじみ野市近隣まで迫ってきている状況です。昼間に電気工事の作業服を着ていかにも作業をしているような感じで堂々と犯罪を行っているケースもあり、やはり地域の目を増やしていくことが大事であり、東入間警察署と連携してパトロールの強化を図るなど、高齢の方々の住宅地で増えてきている状況も含めて対応を考えていきたいです。

参加者 川崎調整池が令和7年10月に完成予定とのことで、元福岡地区の浸水害が大幅に減少することが見込まれ、地区住民は感謝しております。また、以前から要望していますが元福岡1丁目内の低地の内水氾濫が大雨・集中豪雨時に発生するので、その対策をお願いします。その要因は、貯留ピットと排水用水中ポンプ容量が小さい、揚程揚水管が80ミリでは細い、旧セブンイレブン跡地の貯留ポットまで雨水配管T菅1カ所、L菅3カ所を流れるため流れが滞る、雨水が排水管に流れずにマンホールから低地道路へ噴き出している、元福岡1丁目と寺尾小裏の市道境に寺尾地区の雨水溝に滞ることが挙げられます。

対策案としては、貯留ピットを大きくして排水ポンプの容量を現在より大きいポンプの設置を検討、新たに排水口の設置、冠水時に排水ホース200mmを取付け、元福岡1丁目の貯留ピット側市道に排水する。以上の対策を要望します。

市長 ご指摘の内容は私どももそのように認識しています。提案していただいた対策についてはすぐに進められるものではありませんが、まずは川崎調整池の整備をスピーディに行っていきます。ただ、提案して

いただいた対策も併せて進めればより効果があると考えています。

8月29日夜の大雨の際、私も現地をパトロールして葦原中と星和幼稚園前の道路は冠水している状況は確認しましたが、幸いにして元福岡地区の住宅街の冠水は免れました。しかし、ご指摘の通り旧セブンイレブン跡地には水が溜まっていました。星和幼稚園の前の道路も川越江川が越水はしていませんが、道路側の排水の水位が高かったため雨水を処理することが出来なくなってしまったのが原因と思われます。この日はなんとかこの程度の状況で済みましたが、ご指摘、ご提言していただいたことは検討していきたいと考えています。

参加者 中学校の図書室について、貸し出し返却の方法は、本は全てバーコードが付いているがデータベース化されておらず、未だに手書きのカードが使われています。また、蔵書目録が存在していなく、本の確認は記憶と目視で確認するしかなく、蔵書点検も行われていないので学校教育課で把握している蔵書数と実際の蔵書数には差異があると思われます。加えて、専任の学校司書がおらず、有償ボランティアの学校図書活用支援員しかいない状況です。

このような状況のため、図書室の電子データベース化を図り、専任の学校司書を設置することを要望します。

市長 西部教育事務所管内で、ふじみ野市は教育予算の人口比率では1番高い状況です。学校の週休2日制が定着してから中学の図書室利用率は低下している状況で、教育委員会でも優先順位を付けながら学校環境を整えるために予算を使っていますが、図書館司書の資格を有している方から中学校図書室について貴重なご意見を頂いたので、趣旨と要望について教育委員会に伝えます。

参加者 今、国で国民民主党の提案で103万円の壁の撤廃について議論されています。国は7兆円から8兆円の減収、地方交付税も5兆円程度減少すると報道されていますが、ふじみ野市への影響や私たちの暮らしへの影響は出てくるのでしょうか。

市長 国民民主党の政策提案で103万円の壁と言われており、控除の額が上がれば、当然、税収は全体で7~8兆円分が減ってしまうと思われ、うち5兆円程度とは地方分と思われます。ふじみ野市に入ってくる税金が減れば、その分は国から交付される地方交付税で補填される仕組みです。

ふじみ野市は正式試算ではないですが、20億円程度減少するので

はないかと予想されます。もし、国が地方交付税を支出する財源が無い場合は、各自治体へ交付する地方交付税の足りない部分の予算は臨時財政対策債を充て、その分は翌年度以降に国が地方交付税を交付して対処するので市への影響は無いと思われま

す。国が 103 万の壁を撤廃した場合に減少した税収分の財源をどうするかについて大きな問題になるので、財政調整基金を取り崩す必要があるのか等色々なことが考えられますが、税収が減っても地方自治体になるべく影響が無いようにするため、国で議論して良い案を出してもらうことに期待をしています。

現段階での影響予測は難しいですが税収が減るのは確実なため行政サービスが低下しないようにしたいと考えています。

参加者 川崎調整池の管理について、川越市とふじみ野市のどちらになりますか。

市長 川崎調整池とポンプはふじみ野市が管理しますが、管理費用は両市が負担割合に応じていきます。

参加者 災害対策本部に大きなモニター等を導入して、災害時に災害対策本部にてリアルタイムで災害の情報共有が可能になったと説明を受けましたが、そこで共有される情報はホームページを通じて市民は見ることはできますか。

市長 今後はシステムを拡張していく予定ですが、実際の運用はかなり複雑です。できるだけ市民の皆さんに情報共有できるようにしていきたいと思います。

参加者 ハザードマップには新河岸川が氾濫すると元福岡地区は 0.5 m 浸水すると記載されているが、以前にポンプの件で説明を受けた際に前副市長からは 2.5 m 浸水すると聞きました。

ハザードマップにそのことが反映されていないのは何故ですか。

市長 元福岡地区が 2.5 m 浸水する想定は荒川が氾濫した場合です。

当時の説明は間違いだったかもしれないので改めて説明すると、新河岸川が氾濫した場合は 2.5 m まで水位が上がる想定は考えにくく、ハザードマップの記載が正しいです。

参加者 元福岡地区と川越市寺尾地区の市境の道につきまして、寺尾地区では住宅開発で急速に家が増えており、寺尾小脇の道へ入って元福岡地区の市境の道に入ってくる車が増えています。この道は狭くてクラックがあり車同士がすれ違うのも大変な状態のため、寺尾地区で住宅が

増加すると交通量が増えて道路が混雑してしまうので川越市と協議を行ってほしいです。

また、元福岡1丁目のその道から東側の道なのですが水道管の破損が多くて、150mに満たない範囲で続けて5カ所位で水が出るたびに工事が行われているので改善してもらいたいです。

市長 ふじみ野市と川越市の行政境の道路なので、川越市と協力して道路の安全対策について話をして行きたいと思います。

また、水道管の破裂について経年劣化が原因ですが、その地域は開発行為時に業者が水道管を入れて市に採納したものです。

今後、市が計画的に水道管を直していきます。

参加者 西友上福岡店が閉店後して跡地を東武鉄道が購入したようですが、今後にどのような計画があるのでしょうか。

市長 東武鉄道が跡地を購入しました。最近になって旧西友上福岡店の跡地解体工事を始めることについて周辺住民へ周知されましたが、周辺は狭い道のため、現地に重機を入れることは夜間に何とか出来るのですが、解体した廃棄物を搬出するため車両が入るにも時間が掛かってしまうので、計画では1年数ヶ月掛かる見込みです。

その後は、詳細については事前協議中ですが、用途制限内で定められている範囲内でマンションが建設される予定です。